かちまいスポーツ

スポーツの日程・記録は▼FAX0155-25-2700
掲載写真の申し込みは▼TEL0120-25-9410

江陵 新得振り切る

七回に集中打で勝ち越す

夏の高校野球十勝支部予選

第4日は30日、雨で中止となった第3日のB、C両ブロックの1回戦を行った。午前の第1試合は、江陵が七回に新得の好投手・宮脇康（3年）から小畑憂輔（3年）の勝ち越し二塁打などで3点を奪い、5—2で逃げ切った。江陵は第7日（7月3日）に白樺学園と代表決定戦進出を懸けて戦う。（岡部彰広、古田千晶、折原徹也）

【Bブロック1回戦・江陵—新得】江陵は七回一死一、二塁、小畑がライトの頭上を越える二塁打の間に二走・高橋が三塁を駆け抜け、勝ち越しのホームを踏む（後方は一走の松下）

◇Bブロック▽1回戦

新得	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
江陵	2	0	0	0	0	0	3	0	×	5

▽二塁打＝小柳（新）小畑（江）

1点を先制された江陵は初回、高橋、松下の連打に小畑の犠打で一死二、三塁とし、伊藤の内野ゴロ敵失、高野のスクイズで逆転。七回には一死から高橋の内野安打、松下の左前打と再び1、2番コンビがチャンスをつくり、小畑も右中間二塁打の鮮やかな3連打で勝ち越し。さらに挟撃プレー間に松下が生還。伊藤のスクイズでだめ押しした。エース高野は連打を打たれたのは八回だけ。スライダーを武器に安定した投球で試合を引き締めたが、守備が失点に絡む3失策と課題を残した。

春のベスト8校の新得は、初回に敵失を足掛かりに高橋の中前適時打で先制。逆転された三回にも鳥本が中前打で出塁し、相手の2連続失策で追いついた。エースの宮脇も、2点を奪われながらも六回まで毎回の8奪三振と力投しただけに、惜しまれる試合だった。

【新　得】

		打	安	点	振	球
③	鳥本	5	2	0	0	0
⑦	櫛田	3	0	0	0	0
⑤	高橋	4	2	1	0	0
⑥	芦野	4	0	0	3	0
①	宮脇	4	1	0	1	0
⑧	小柳	4	1	0	1	0
②	小川	3	1	0	1	1
⑨	金田智	3	0	0	1	0
H	阿部	1	0	0	0	0
9	金田亮	0	0	0	0	0
④	渡邊	3	0	0	2	0
H	熊谷	1	0	0	0	0
犠併残盗失	20902	35	7	1	9	1

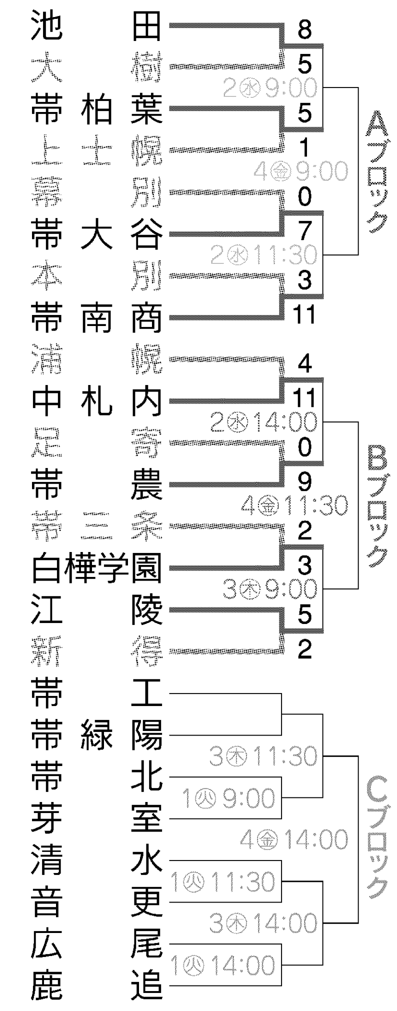
【江　陵】

		打	安	点	振	球
⑧	高橋	4	3	0	1	0
⑨	松下	4	3	0	1	0
②6	小畑	3	1	1	0	0
③	伊藤	3	0	1	0	0
①	高野	3	2	1	0	0
⑤	船戸	3	0	0	1	0
④	笠松	4	0	0	2	0
⑦	菊池	1	0	0	1	0
H7	安藤	1	0	0	1	0
H	大塚	1	0	0	1	0
7	毛利	0	0	0	0	0
H	津田	1	0	0	0	0
7	棚橋	0	0	0	0	0
7	佐々木	0	0	0	0	0
⑥	佐藤	3	0	0	0	1
2	国沢	0	0	0	0	0
犠併残盗失	40703	31	9	3	8	1

会心の当たり勝ち越し打に

○…江陵は2—2のまま迎えた七回一死一、二塁から、小畑憂輔（3年）の右中間越え適時二塁打で勝ち越し、この回3得点を挙げ新得を振り切った。小畑にとって4打席目に出た初安打。「右に流して走者を進めたいという思いだった。ヒッティングのポイントを前でとらえ、アウトコース高めの直球を振り抜きました」と、会心の当たりとなった。春は遊撃手、今大会から捕手として初の公式戦を迎えたが、前日の雨で試合が順延となり緊張感も和らいだよう。「気持ちを落ち着かせリードができた。次の白樺学園戦も勝つ気で挑みたい」と意気込んだ。

小畑憂輔



目指せ甲子園
OCTV チャンネル1
高校野球ダイジェスト
午後9時　午後10時　午後11時
（30日放送分）
▽Bブロック1回戦　江　陵—新　得
▽Cブロック1回戦　帯　工—帯緑陽
選手へ激励を贈ろう!!
FAX 0155-23-5507
Eメール octv.b@octv.ne.jp

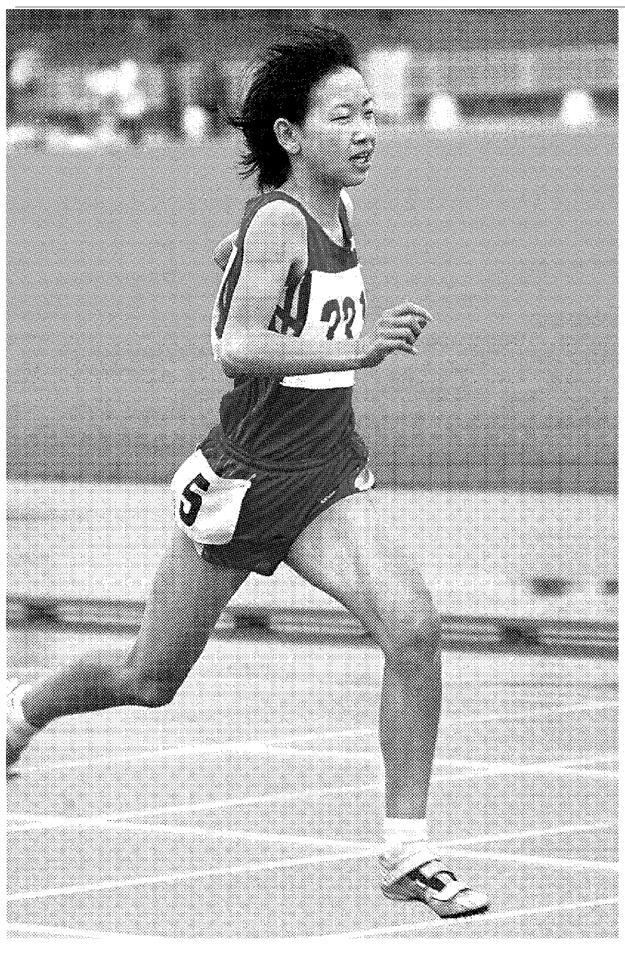
全日本中学通信陸上十勝予選

女子3年百、二百 福島（糠内3年） 男子3年百、二百 鈴木（帯八3年） 2冠

女子千五百 清水（足寄1年） 男子千五百 木村（下音更2年） 十勝中学新

第49回全日本中学校通信陸上競技大会兼第34回道中学校陸上競技大会十勝地区予選兼第30回全日本中学校陸上競技選手権大会十勝地区予選会（日本陸上競技連盟など主催）最終日が29日、帯広の森陸上競技場で行われた。地元札幌で開催される全国中学を前に男女の十勝短距離界のエースが圧巻の強さを見せた。女子は二百㍍に出場した福島千里（糠内3年）が25秒97で制し3年百㍍と合わせて2冠、予選では昨季の全国中学ランキング9位に相当する25秒63の大会新を向かい風1・0㍍の中でマークした。男子は過去2年間、百㍍でジュニア五輪入賞を果たしている鈴木俊広（帯八3年）が3年百㍍を11秒64で制し、二百㍍と合わせて2冠、予選では11秒41の大会新を樹立した。女子千五百㍍の清水美穂（足寄1年）は4分41秒09の大会新をマークし、2分23秒21で制した八百㍍との2冠、八百㍍と合わせて十勝中学新を樹立した。木村隼人（下音更2年）も男子千五百㍍を4分12秒44の大会新で制し、三千㍍に続き2冠を獲得、三千㍍とともに十勝中学新を打ち立てた。

この日は女子二百㍍の福島、同千五百㍍の清水、男子千五百㍍の木村が全国大会参加標準記録に到達、それぞれの選手は2種目で全国大会出場となる＝2位以下の記録は後日掲載。（丸山一樹）



百㍍、二百㍍で全国トップクラスのタイムを記録している福島千里（糠内）

全国での活躍期待

福島・鈴木「好調さ持続し入賞を」

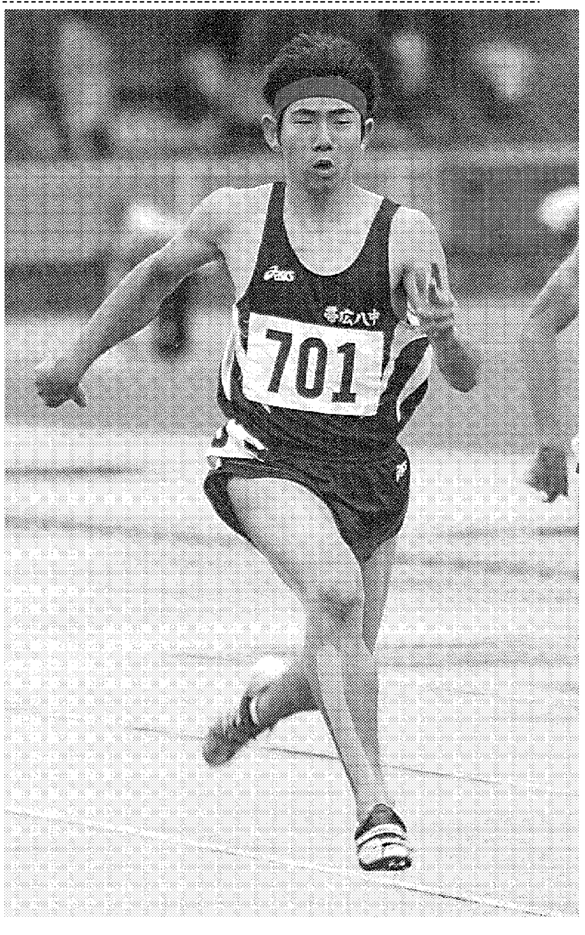
3年百㍍、二百㍍のタイトルは女子が福島千里（糠内3年）、男子が鈴木俊広（帯八3年）が獲得。2人は札幌で開催される全国大会で活躍が期待される。29回開催された全国中学でショートスプリント（百㍍、二百㍍）の王者を延べ12人も輩出している北海道だけに、快進撃を続ける福島、鈴木もお家芸の種目で旋風を巻き起こしたい。

福島は2日間にわたって絶好調だった。百㍍では決勝で12秒48、二百㍍では予選で25秒63をマークするなど、全国大会参加標準記録を突破。二百㍍では昨季アジア大会出場の木田真有（福島大3年—帯南商高出）の持つ大会記録を100分の5秒更新した。

鈴木は二百㍍で22秒67の好走を見せ、同標準記録を破ったが、ジュニア五輪で2年連続入賞している百㍍は悪天候もあり不発に。しかし全道中学で再度記録を狙う。

昨季も道短距離勢は全国中学で成田可菜絵（上磯、現函館大谷高）が史上初の3冠、男子二百㍍では谷中啓祐（帯三、現帯柏葉高）ら4人が入賞する快挙を達成している。福島、鈴木もそれに続きたいところだ。負けん気の強い2人は「本番では良い走りをして、何とか入賞を果たしたい」と同じ言葉を口にする。

決戦は8月20—22日。全国最高峰のファイナルを目指す2人の表情はこれまでになく引き締まっている。



百㍍、二百㍍で2冠を達成した鈴木俊広（帯八）

男子円盤投げ

越智（帯農3年）日本Jr新で2位

陸上・日本ジュニア選手権 宮内も健闘（日大—帯農出）3位

陸上競技のJOCジュニアオリンピックカップ第19回日本ジュニア選手権大会（日本陸上競技連盟主催）が28、29の両日、群馬県の敷島公園陸上競技場で行われ、男子円盤投げに出場した越智大輔（帯農3年）が50㍍95の日本ジュニア新記録をマークし、高校生最高の2位に入る快挙を達成。また同高を昨年卒業した宮内優（日大1年）も50㍍44の同新記録をマークし3位に入る健闘を見せた。越智は全道高体連で3回ファウルを犯し、インターハイ出場を逃していたが、悔しさを晴らした。優勝は井上喜貴（早稲田大）で51㍍59の日本ジュニア新。

見事な大記録で雪辱果たす

○…6月17—20日の全道高体連でまさかの予選落ちを喫した越智大輔（帯農3年）がよみがえった。高校用の1・5㌔より重い1・75㌔で50㍍越え。見事大記録を打ち立てた。

2投目に日本ジュニア新記録となった50㍍95をマーク。最終6投目を迎えるまでは首位を走っていたが、井上喜貴（早大）に最後の最後で抜かれた。「優勝を目指し大会に臨んでいたので悔しい」と、思わず唇をかむ。しかし照準を置く秋の国体へ向け、大きなきっかけをつかんだ。

最後に越智は「国体では優勝を目指す。また来年も大学で競技を続行し、この大会では優勝と、日本ジュニア新記録の更新をもう1度目指す」と力強く語っていた。

越智大輔

日本ジュニア新記録で
優勝逃し悔しい

3位に入った宮内優（日大1年）の話　群馬へ向かう前、仲間に優勝を宣言していたので、新記録を出しても納得はいかない。越智にも負けたことも、かなり悔しいです。今後は一般用の円盤（2㌔）で50㍍突破を果たしたい。

防災・防犯設備
ご相談はフジ防災
電話23-8787・24時間受付中

道長距離界のエースに成長

○…木村隼人（下音更2年）は男子三千㍍に続き、千五百㍍でも十勝中学新と全国行きを決めた。2年生だが、名実ともに北海道長距離界のエースといえる存在になった。

決勝は雨中のレースだったが、前半から積極的に松浦光（帯緑園3年）ら上級生を引っ張り、レースを組み立てた。後半は疲れを見せたものの、大きくペースを崩すことなくフィニッシュ。全国大会参加標準記録（4分12秒50）を100分の6秒上回った。

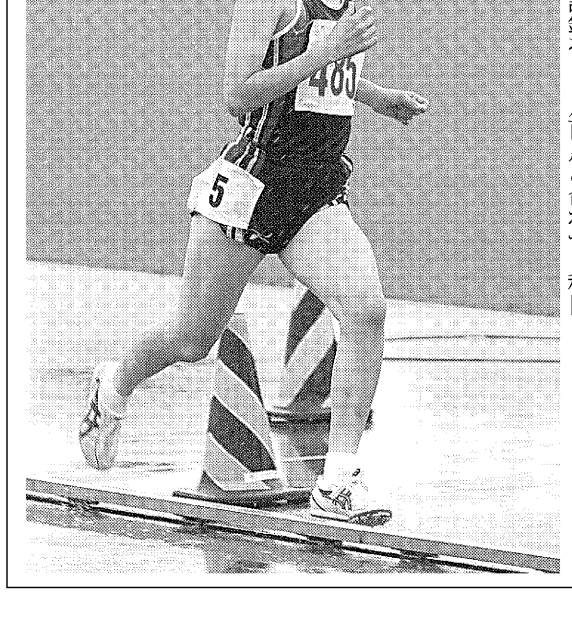
木村は「全国では千五百㍍、三千㍍ともトップ選手に食らい付いていきたい」と燃えている。

「頑張るだけ」奮闘を誓う

○…清水美穂（足寄1年）が八百㍍に続いて千五百㍍でも十勝中学新をマークし優勝を飾った。

決勝は序盤からじわじわと後続を引き離し、自らが持つ十勝中学記録を1秒74短縮。全国で決勝進出を果たすには4分30秒台の記録が求められるが、この記録も日本の中学1年歴代ランキングで5位に入る快記録。将来性は十分だ。期待された八百㍍決勝では惜しくもタイムは出なかった。

八百㍍と合わせ2種目で全国切符を手にした清水は「とにかく頑張るだけ」と全国での奮起を誓った。



八百㍍、千五百㍍で全国大会出場を決めた清水美穂（足寄）

全道で好成績を

女子三種競技Aを2665点で制した中島悠貴（芽室2年）の話　苦手な砲丸投げで、きょうも点を稼げなかったのは悔しい。全道大会では2800点を取って全国大会へ行きたい。

中島悠貴

【男子】▽1年百㍍（無風）＝①皆川澄人（音更）13秒01▽2年百㍍（無風）＝①鈴木裕太郎（帯西陵）12秒58▽3年百㍍（向かい風0・2㍍）＝①鈴木俊広（帯八）11秒64・予選で11秒41の大会新▽四百㍍＝①西貴裕（下音更）52秒67▽八百㍍＝①山口伸也（帯五）2分7秒12▽千五百㍍＝①木村隼人（下音更）4分12秒44・大会新、十勝中学新、全国標準突破▽1年千五百㍍＝①安保翔太（下音更）4分52秒02▽4×百㍍リレー＝①本別（古澤、佐藤、林、近藤）47秒36▽走り高跳び＝①加藤昇吾（音更）1㍍60▽砲丸投げ＝①阿部真基（大樹）11㍍61▽三種競技B＝①古澤元基（本別）2868点（砲丸投げ・11㍍87、走り幅跳び6㍍04、四百㍍・55秒69）

【女子】▽二百㍍（向かい風1・0㍍）＝①福島千里（糠内）25秒97・全国標準突破、予選で25秒63の大会新▽八百㍍＝①清水美穂（足寄）2分23秒21▽千五百㍍＝①清水美穂（足寄）4分41秒09・大会新、十勝中学新、全国標準突破▽三千㍍＝①三部早希（鹿追）11分44秒75▽百㍍障害（向かい風1・9㍍）＝①庄司遙（清水）16秒96▽4×百㍍リレー＝①士幌中央（飯島、三上、奥村、冬野）52秒46▽走り幅跳び（追い風1・2㍍）＝①柴山衣理（幕別）5㍍11▽三種競技A＝①中島悠貴（芽室）2665（走り高跳び・1㍍47、百㍍・13秒22、砲丸投げ8㍍12）